街の元気 ● みんなの元気を応援します

viva city

ビバ＊シティ

公益社団法人
石川県柔道整復師会

后整広報 110

VOL. 24

2019 December

サポート接骨石川(SSI)活動報告

金沢マラソン2019 ほか

ポルトガル柔道選手団が加賀市で事前合宿

～本会に練習時の救護＆ケア 依頼～

妙成寺さざれ石

[柔道整復師倫理綱領]

国民医療の一端として柔道整復術は、国民大衆に広く受け入れられ、民俗医学として伝承してきたところであるが、限りない未来へ連綿として更に継承発展すべく、倫理綱領を定めるものとする。
ここに柔道整復師は、その名誉を重んじ、倫理綱領の崇高な理念と、目的達成に全力を傾注することを誓うものである。

１、柔道整復師の職務に誇りと責任をもち、仁慈の心を以て人類への奉仕に生涯を貫く。
２、日本古来の柔道精神を涵養し、国民の規範となるべく人格の陶冶に努める。
３、相互に尊敬と協力に努め、分をわきまえ法を守り、業務を遂行する。
４、学問を尊重し技術の向上に努めると共に、患者に対して常に真摯な態度を以て接する。
５、業務上知りえた秘密を厳守すると共に、人種、信条、性別、社会的地位などにかかわらず患者の回復に全力を尽くす。

街の元気 ● みんなの元気を応援します

viva city ビバ＊シティ

VOL. 24

公益社団法人
石川県柔道整復師会 后整広報110

2019 December

C O N T E N T S

1 **巻頭言**
あなたの町の接骨院、その原点は患者さんの信頼　二ッ谷 剛彦

2 **サポート接骨石川（SSI）活動報告**
①宝浪漫マラソン2019
②KOMATSU全日本鉄人レース2019
③第38回 野々市じょんからの里マラソン
④金沢マラソン2019
⑤第60回 石川県防災総合訓練
【準備編】　質の高いケアを提供するため事前研修会を実施

10 **ポルトガル選手団の世界柔道事前合宿で救護&ケア**

12 **支部だより**
金沢南支部／金沢北支部

13 **組合だより**

14 **トピックス**

巻頭言
かんとうげん

あなたの町の接骨院、その原点は患者さんの信頼

■二ッ谷 剛彦
（ふたつや たけひこ）
（公社）石川県柔道整復師会 副会長

［プロフィール］
平成17年より理事８期目。その間、事業部長・保険部長・金沢北支部長・健康やわら体操普及委員長等を歴任、北信越ブロック柔道監督としても活躍する。平成27年４月に副会長及び、日整代議員に就任。柔道6段。

柔整療養費の適正化への取り組みを徹底

Viva City ご愛読者のみなさまには、日頃より公益社団法人石川県柔道整復師会の活動にご理解ご協力を頂いておりますことに厚く感謝申し上げます。

また、全国各地に甚大な被害をもたらした台風 19 号で被災された方々に対し、心よりお見舞い申し上げますとともに、一日も早いご再建を願っております。

本年度の本会行事も予定どおり執行され、今後さらに嶋谷清会長のもと執行部一丸となって、柔道整復師業界の発展のために邁進していきたいと思っております。

さて、ご承知のとおり、柔整業界では平成の終わりに『制度改革』が行われ、柔整療養費の適正化を図ることを目的とした「公的審査会の権限強化」に関する取り組みが展開されております。柔整審査会では、提出された療養費請求書に対して不正請求が行われないように審査項目を見直し、さらに「面接委員会」を設置し、適正化の徹底のためより一層力を入れているところです。

乳幼児（子ども）医療費助成金制度 償還払い方式から現物支給方式へ

新元号『令和』を迎えた現在、石川県においては、「乳幼児（子ども）医療費助成制度」により、子どもの保健の向上と福祉の増進を図ることを目的に、保険診療の一部負担金について県と市町から助成が行われています。

制度発足時は、受診者が医療機関に対して保険診療の一部負担金を支払った後に市町に対して助成金額の請求を行い、支払いを受けるという償還払い方式でした。平成 27 年度、医療機関が市町から助成額相当額の支払いを受ける現物給付方式へと変更され、受診者の負担が大幅に軽減されましたが、柔道整復師療養費に関しては償還払い方式のままでした。

この問題を解決するため、本会執行部が中心となり、県・各市町行政機関及び関係機関との協議を重ねてまいりました。紆余曲折はありましたが、県民のみなさまの声も後押しとなり、令和元年 10 月より県内全域（一部市町除く）において現物支給方式が導入されることになりました。

結びになりますが、令和の新時代を迎え、県民のみなさま方が健康で安心して暮らせるよう本会会員一同、より一層の努力をしていく所存です。

今一度読者のみなさまにおかれましては、これまで以上のご理解とご協力をお願いいたしまして、私の挨拶とさせて頂きます。

Support Sekkotsu Ishikawa
SSI
サポート接骨
石　川

●特集●

サポート接骨石川(SSI)活動報告

ハツラツと健やかに人生を楽しむお手伝い

サポート接骨石川(SSI)は、(公社)石川県柔道整復師会会員によるボランティア組織です。ここでは県内各地で開催されたスポーツイベントでのケア・サポートを中心に、SSIによるさまざまな活動の一部をご紹介します。

サポート接骨石川(SSI)活動①

宝浪漫(たからろまん)マラソン2019

令和元年９月22日(日)、宝達志水町にて「宝浪漫マラソン2019」が開催され、本会から６名の会員がボランティアとして参加、宝達志水病院の医師と共に出場選手の救護活動を行いました。

台風がやって来る前に…スタート!!

この大会のコースは、能登で一番高い「宝達山」を登ったり、全国で唯一、渚にドライブウェイがある「千里浜海岸」を走ったりと非常に個性的で、初の外国人ランナーを含む県内外の1,875人が参加しました。

救護活動に参加するメンバーは、交通規制を避けて朝６時50分に宝達志水総合運動公園に集合し、特設テントを設置しました。スタート前には、膝や足首に故障個所を持つランナーに予防を目的としたテーピングを行い、ゴール後は、足に痙攣をおこし歩行が困難になるなどしたランナーに、アンダーラップやテーピングを活用しての救護活動を行いました。今年は、救急車もスタンバイする救護所の真向かいに特設テントが置かれたため、医師との連携が非常に取りやすい環境になっていました。

スタート前のブースの様子。

■本会の活動を知って頂くチャンス！

ブースには、本会のホームページやフェイスブックにアップされている赤十字奉仕団としての活動を簡単に見てもらえるよう、ＱＲコードが入ったカードを用意。ケアに訪れたランナーだけでなく挨拶に来られた国会議員や町長をはじめ関係者の方々にもお渡しするなど、広報活動を行いました。

前田慶次郎(？)と
ゴールでハイタッチ！

当日は台風17号が日本海を北上中で影響が心配されましたが、幸いなことに石川県に最接近する前に大会は終了し、合計37名のランナーへの救護活動を無事行うことが出来ました。これからも大会成功の一助となれるようサポートを続けたいと思っています。

宝達志水町の「寶達」町長と(左から２人目)。

救護を担当した
医師(左)と。

痙攣をおこしたランナーに
アンダーラップを施す。

選手をケアする
会員も汗だく！

●宝浪漫マラソンについては
本会のＨＰでもご覧頂けます。
URL:http://jyuusei-ishikawa.jp/ssi-takara.html

サポート接骨石川(SSI)活動②

KOMATSU全日本鉄人レース2019

雨の中、
飛び出していく選手たち。

令和元年９月29日(日)第38回ＫＯＭＡＴＳＵ全日本鉄人レースが開催されました。この大会は小松市のこまつドームを発着点にバイク、登山、ランを行うレースで、約900人のボランティアが運営を支える歴史ある大会です。本会も20年以上にわたり出場選手へのケア・サポート活動を実施してきました。

■総勢52名で選手をサポート

昨年度は大型台風の影響で競技内容の変更があり、レースに参加できない選手も出るなどのハプニングがありました。今年は午前は雨模様、午後からは好天とコンディションが変わる

中、688人の選手たちが力一杯、過酷なレースに挑戦しました。

大会当日は、公益社団法人石川県柔道整復師会の会員34名が日本赤十字奉仕団・サポート接骨石川（ＳＳＩ）として、毎年お手伝い頂いている金沢大学トレーナー部（ＫＡＴＴ）の学生18名とともに、小松ドーム内特設ブースにて選手のケア・サポートを行いました。

午前５時半から行ったレース前のケアでは、選手が不安を抱える部位にテーピングやストレッチを施して改善を促し、パフォーマンスを最大限発揮できるよう指導しました。

午前10時頃には、ショート部門の選手達が続々とゴールしケア・サポートブースを訪れました。その後もロング部門、鉄人部門の選手達が次々とゴールし、ブース内にはたくさんの選手があふれました。

■出場選手の半数がブースを利用

レース後には、筋緊張が強い部位にストレッチを行ったり、必要とする部位にアイシングを施したりと、ケアの内容も各会員が選手の状態をしっかりと見極めて行い、たくさんの選手から喜びの声を頂きました。

途中、空き時間を利用して森田一哉会員によるストレッチの勉強会も開かれ、会員のみならずＫＡＴＴの学生たちも写真やメモを取るなど真剣に聞き入っていました。

今回の大会でケアを行った人数は約320名で今年も出場選手の半数に達しており、信頼出来るケア・サポートとして選手の方々から高い評価を頂いていることを実感できた活動となりました。

空き時間を利用して勉強会。メモをとる KATT の学生も真剣。

選手の声が励みになる！

● KOMATSU 全日本鉄人レースについては本会ＨＰでもご覧頂けます。
URL:http://jyuusei-ishikawa.jp/ssi-tetujinn.html

Support Sekkotsu Ishikawa SSI
サポート接骨石川

サポート接骨石川（SSI）活動③

第38回野々市じょんからの里マラソン

選手の状態に合わせてテーピングを施す。

この大会での活動も16回目、選手のケアもスムーズに進む。

令和元年10月20日（日）、第38回野々市じょんからの里マラソンが野々市市民体育館周辺で行われ、（公社）石川県柔道整復師会から21名の会員が日本赤十字奉仕団・サポート接骨石川（ＳＳＩ）として選手達のケア・サポートにあたりました。

前日の雨から一転、大会当日は爽やかな秋晴れとなり、マラソン競技には最高の一日に。金沢マラソンの１週間前にもかかわらず、1,012名ものランナーの参加がありました。また今年は、じょんからの里マラソン大会最多出場（30回）で聴覚障がいをお持ちの選手が手話による宣誓を行いました。

※野々市市では昨年から、障がい者コミュニケーション条例が制定され手話等の普及が図られています。

■今大会での活動も16回目に

ケア・サポート活動に参加する会員は、大会前日に事前研修とブース設営を行い、レース当日は早朝６時に集合。活動の注意点等を確認し、スタート前及びゴール後の選手達へのケア・サポートを開始しました。

大会前日にブース設営と事前研修を行って翌日の活動に備える。

スムーズに行われたこの大会での活動も今年で16回を数えますが、ケア後の選手の笑顔には毎回励まされます。またレース後、本会も賞品を提供する抽選会で盛り上がっている様子や、野々市市からの「来年もお願いします」という言葉に、地域に密着したこの大会に貢献できた喜びと充実感を味わうことができました。

金沢南支部長賞の贈呈で盛り上がる（プレゼンターは西川支部長）。

●野々市じょんからの里マラソンについては本会ＨＰでもご覧頂けます。
URL:http://jyuusei-ishikawa.jp/ssi-jyonnkara.html

準備編

サポート接骨石川（SSI）活動 研修会

質の高いケアを提供するため事前研修会を実施

KOMATSU全日本鉄人レース

「レース後のケアの際に行う上肢と下肢のストレッチ」

日　時■令和元年９月14日（土）20時30分～
会　場■小松ドーム研修室
参加者■本会会員15名、金沢大学アスレチックトレーナー部（ＫＡＴＴ）

中村支部長（上）の説明の後、森田会員による講義が行われた。

中村茂之加賀支部長がＫＯＭＡＴＳＵ全日本鉄人レースの歴史などを交えながら活動時の注意事項を説明した後、森田一哉会員を講師に研修会へと移りました。

テーマは「レース後のケアの際に行う上肢と下肢のストレッチ」。日常の施術とレース後の筋・腱等の状態の違いや対処法、過剰なケアの危険性などについて、実演を交えながら講義を行いました。

参加した会員とＫＡＴＴの学生が熱心にメモを取る表情からは、24回目を数える活動であっても初心で臨み、無事に成功させようという緊張感がうかがえました。

大会当日は、スタート前の早朝からゴール後までと長丁場の活動になりますが、自分自身のスキルアップにつながる貴重な経験にもなります。参加者は自信をもって選手に施術を提供できるよう真剣に学んでいました。

金沢マラソン

「マラソンレース中の偶発事故～救護所での予防と対策～」

日　時■令和元年10月８日（火）20時30分～
会　場■木島病院
参加者■ケア参加者30名（本会会員、石川県スポーツトレーナー連絡協議会会員（IST）ほか））

石川県スポーツトレーナー連絡協議会（ＩＳＴ）と合同で実施。初めに西川典孝会員が、マラソンレース中の偶発事故について講義を行いました。国内は空前のフルマラソンブームですが、それに伴ってレース中の事故も増えています。西川会員はマラソン中に起こりうる筋痙攣や脱水、低・高体温症、心肺停止など、様々な症状とその対策を説明しました。続いて佐藤裕之会員が筋痙攣が発生するメカニズムを解説し、それに対応するセルフ・ストレッチ法の講習を行いました。

その後、前日及び当日の活動について説明があり、通行許可証、駐車許可証などが配布されると参加者は、引き締まった表情で備品を受け取っていました。

●選手の皆さんにより質の高いケアを提供し安心して競技を楽しんで頂くため、活動に参加する会員は事前研修等を受講のうえ各大会に臨んでいます。

Support Sekkotsu Ishikawa
SSI
サポート接骨石川

サポート接骨石川（SSI）活動④

金沢マラソン2019

猫ひろしさんも走る！ニャ～!!

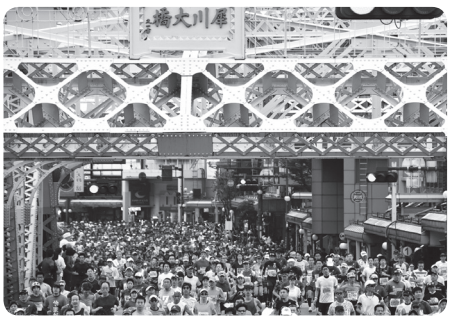
金沢マラソン名物（？）
おもてなしハイタッチ！

東京オリンピック出場が決まった競歩の鈴木選手らが見送る。

令和元年10月27日（日）、第５回金沢マラソン2019が開催されました。我が公益社団法人石川県柔道整復師会は、日本赤十字奉仕団・サポート接骨石川（ＳＳＩ）として、石川県スポーツトレーナー連絡協議会（ＩＳＴ）を含む約30名で出場ランナーへのケア・サポート活動を行いました。また医学祭で忙しい中、金沢大学アスレッチクトレーナー部（ＫＡＴＴ）の２名も参加され、ブースの設営から撤収と受付業務を担って頂きました。

■小雨から、突然の土砂降りに

金沢マラソンは、「金沢をまるごと走る！」というキャッチフレーズのもと、豊かな自然や歴史的景観、暮らしが息づく街並みを走り、給食所である「食べまっしステーション」で石川の食を楽しむなど、金沢を満喫しながらフィニッシュできる魅力ある大会です。


犀川大橋を渡る選手の波、波、波！

今年は、３万3,995人の応募の中から当選した過去最多の１万4,256人が出場。途中から雨が降り出し、時々雨あしが強まる悪天候の中、制限時間７時間以内に１万3,744人（96.4%）の選手が完走しました。

本会からのケア・サポート活動への参加者が25名と例年になく少なかった今年、昨年より1,000人以上も多い出走ランナーへのケアを充分に行えるかが大きな不安材料でした。活動前のミーティングでは、金田豊茂金沢北支部長から「今日の天候から考えてケア・サポートを希望するランナーも多く、低体温や筋痙攣など重度の症状を訴えるケースも増えるでしょう。過酷な活動になると思いますので、休憩と甘い物を取るなどして自身の体調にも気をつけてください」と注意喚起がありました。

■少数精鋭で522名をケア

予想されたとおり、午前８時40分のスター

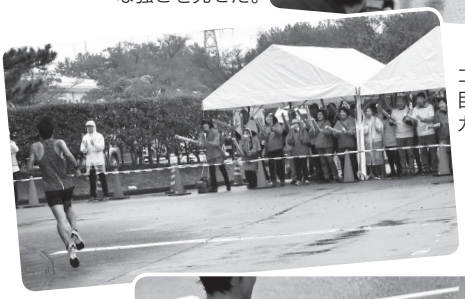
トから約２時間後に突然の大雨となり、疲労のピークを迎えた筋肉が容赦なく冷やされて筋痙攣や低体温がランナーを襲います。30席以上用意したケアブースの待合所もいっぱいとなり、休憩も取らずにケアを行う会員一人ひとりの顔は真剣そのもの。施術の際に覗かせるプロとしての表情が、痛みで苦しむランナーに安心感を与えていました。

少数精鋭の30名でゴール後の選手522名（昨年は約400名）にストレッチやテーピング、アイシングなどを施し、転倒による関節捻挫には関節固定等の救護も行いました。またケアを受けたランナーからは、「この痛みにはどのように対処したらいいの？」といった質問や「体をケアして頂けるこのような場所があってとても助かります！」などの感謝の言葉を頂き、活動の疲れも癒されました。

参加された会員のみなさま、本当にお疲れさまでした。

フィニッシュ
西部緑地公園
陸上競技場

丸山文裕選手が圧倒的な強さを見せた。


ゴールはもう目の前！
ガンバレ!!

雨の中、帰ってくる選手を野口みずきさんが迎える。

特設ブース
石川県産業
展示館

●金沢マラソンについては
本会ＨＰでもご覧いただけます。
URL:http://jyuusei-ishikawa.jp/ssi-kanazawa.html

サポート接骨石川（SSI）活動⑤

第60回 石川県防災総合訓練

地震や風水害などの災害が発生した際の応急対策に万全を期すため、県では毎年、各防災関係機関や地域住民が参加して防災総合訓練を行っています。60回目となる今年は、野々市市にて実施されました。

令和元年９月８日（日）、野々市市立野々市小学校にて「第60回 石川県防災総合訓練」が実施されました。今回の訓練は野々市市に震度６強の大地震が発生したとの想定で行われ、本会から日本赤十字奉仕団金沢南分団を中心に、サポート接骨石川（ＳＳＩ）として８名の会員が参加。避難場所に設定された野々市小学校の校舎内ピロティーに本分団の救護所を設置し、午前９時から正午まで救護実演を行いました。

訓練には総勢約8,000人が参加、体育館に避難して来た住民のケガの有無や自宅の状況などを各担当者が把握するところから訓練開始です。我々の救護所では段ボールやゴミ袋など身近なものを使用した負傷部の応急処置を実演し、訪れた地域住民の方々に患部の固定法などを体験してもらいました。また途中、視察に訪れた谷本正憲石川県知事、安田健二石川県医師会会長から激励と労いの言葉を頂きました。

外国人被災者に対応する通訳ボランティアも訓練に参加。

煙体験ハウスでは、煙の怖さを擬似体験できた。

救護所を訪れた方々に応急処置を体験してもらった。

段ボール等を使った固定法を実演。

石川県医師会の安田健二会長から労いの言葉を頂いた。

今回の訓練は、多数の負傷者にトリアージを行って救急車やドクターヘリで搬送する訓練や、救援物資輸送の訓練なども行われる大掛かりなものでした。また、増加する外国人をサポートする通訳ボランティアの活動をはじめ、煙体験などを通して多くの災害対策を経験してもらうことができました。大規模な自然災害の頻度が年々増加しています。災害とはどのようなもので、どのように備え、どう行動すれば良いかを考える貴重な一日となりました。

●石川県総合防災訓練については
本会ＨＰでもご覧頂けます。
URL:http://jyuusei-ishikawa.jp/ssi-kennbousai.html

県内の大学柔道部との合同練習などで調整に励む選手の皆さん。

2019世界柔道東京大会出場

ポルトガル選手団が加賀市で事前合宿

～本会に練習時の救護&ケア 依頼～

令和元年8月19日（月）から22日（木）までの4日間、「2019世界柔道選手権東京大会」に出場するポルトガル共和国柔道選手団が加賀市武道館にて事前合宿を行った。本会では加賀市からの依頼で、8月25日（日）開幕の大会に向けて練習に励む選手達の救護を担当した。

加賀市で調整、地元との交流も

ポルトガル柔道選手団総勢24名は、8月17日（土）に加賀入り。気候が温暖な南ヨーロッパから訪れた選手達は、気温35度を超える真夏の加賀市で調整を行ってから、東京の日本武道館で開催される世界柔道に臨みます。

選手団一行は、翌18日（日）の午前中は加賀市武道館で加賀市柔道協会の少年柔道選手たちと手合わせし、午後からは加賀市主催の歓迎レセプションに参加して地元の皆さんとの交流を深めました。

延べ11名の会員で選手団に対応

8月19日（月）から4日間にわたり行われた事前合宿には、北陸大学から28名、金沢学院大学から17名の柔道部員も参加して、活気あふれる練習が繰り広げられました。本会は合宿期間中の救護活動を担当したほか、歓迎レセプシ

35度超えはさすがに…。

ョンも含めて延べ11名の会員が選手団の対応にあたりました。

ポルトガルチームの選手達は明るく友好的！コンディショニングなどについて専属トレーナーと意見交換をする際は通訳を挟みましたが、スマホの翻訳アプリを使って直接コミュニケーションを試みる会員たちに、にこやかな笑顔で答えてくれました。

合宿期間中、大きなケガもなく、23日に無事東京入りしたポルトガル選手団の活躍を期待します!!

選手は皆、明るくて友好的。

翻訳アプリを駆使してコミュニケーションをとる嶋谷会長。

通訳を介してポルトガルチームの専属トレーナーと意見交換。

ポルトガル式テーピング法も観察させてもらった。

世界柔道で ポルトガル選手 大活躍

成績

- ●女子70kg級　銀メダル
  バルバラ・ティモ（Barbara Timo ）
- ●男子100kg級　金メダル
  ジョルジ・イヴァエル・ロドリゲス・ダ・フォンセカ
  （Jorge Ivayr Rodrigues da Fonseca ）

※来年の東京オリンピックでも、ポルトガル柔道選手団が加賀市で合宿を行うことが決定しました。

8/18(日) 歓迎レセプションにも出席 選手との交流を深めた

8月25日（日）から開催される「2019世界柔道選手権東京大会」の事前合宿を行うため加賀市を訪れているポルトガル共和国柔道選手団の歓迎レセプションが、8月18日（日）午後6時から加賀市長生殿で開催されました。

この歓迎レセプションは加賀市主催で行われ、市の依頼で合宿期間中の選手の救護活動を担当する本会も招待を受けました。本会からは嶋谷清会長、二ッ谷剛彦副会長、中村茂之加賀支部長の3名が出席し、4日間をともに過ごすポルトガル柔道連盟の役員、選手、監督、コーチ、トレーナーとの交流を深めました。

挨拶を行うポルトガル柔道連盟のジョージ・フェルナンデス会長。

宮元陸加賀市長を挟んで（左から、中村支部長、二ッ谷副会長、宮元市長、嶋谷会長）。

日本とポルトガルの民族音楽が披露されるなど、会場は友好ムード一色。

支部だより　金沢南支部

金沢南支部家族親睦会

楽しさに夏の暑さも吹き飛ぶ！

令和元年７月21日(日)午後12時より、台湾料理「昇龍」にて金沢南支部家族親睦会が行われ、会員家族50名が参加しました。

参加会員の数名は、親睦会が始まる前から青島ビールでウオーミングアップ。身体が十分に冷やされたところで西川典孝金沢南支部長よりあいさつがあり、川上利昭会員のご発声で改めて乾杯！ 会場に設置された大型テレビには北信越ブロック柔道大会の試合映像が流れ、石川県代表選手が大技を繰り出し見事な一本を取る場面では大歓声が巻き起こり、世界柔道のパブリックビューイングさながらの大興奮に包まれていました。

テーブルに所狭しと並んだ台湾料理をじっくり堪能した後は、お楽しみ抽選会！ 会場にうず高く積み上げられた豪華景品に、参加会員は心躍らせていました。歓喜と興奮に包まれた家族親睦会、夏の暑さを吹き飛ばすひと時となりました。

青島ビールでウオーミングアップ。

ご馳走を前に西川支部長のご挨拶。

金沢北支部

金沢北支部会員・家族親睦会

子ども達の笑い声も賑やかに

令和元年９月８日(日)午後12時30分から、金沢北支部会員・家族親睦会がイタリアンレストラン「ボノボーノ金沢ベイ店」にて行われました。当日は33度を超す真夏日でしたが、涼しい会場での催しに、会員とそのご家族約50名が参加しました。

金田豊茂金沢北支部長の挨拶の後、二ッ谷剛彦副会長のご発声で乾杯。出来たてピザやパスタと多種多彩なビュッフェ料理に舌鼓を打ち、子どもたちの笑い声が響く中、楽しいひと時を過ごしました。イベントとして豪華賞品をかけたくじ引き、争奪ジャンケンゲームを行い、会場はその日最高の盛り上がりを見せました。

最後は大徳勇参与の締めの挨拶と記念撮影で大盛況のうちに終了となりました。

ボーノ！子ども達も笑顔!!

超豪華賞品…さて中身は？

組合だより　第21回 石整協同組合員家族親睦ボウリング大会

初めての試み

参加賞に焼きたてパン 最高！

令和元年10月6日(日)、コロナキャットボウルにおいて第21回石川県柔道整復師協同組合の組合員家族親睦ボウリング大会が開催されました。好天に恵まれ、しかも各地域の行事が多い10月の第１日曜日にもかかわらず多数の参加を頂き、和やかで楽しいひと時を過ごしました。

今回は、初めて開催時間を午前にし、参加賞に焼きたてパンを用意するなどの新しい試みを行いました。これからも「組合員、家族が喜ぶボウリング大会」をめざして、福利厚生委員会一同工夫を凝らしてまいります。次回も多くのご参加をお待ちしております！

橋本理事長から優勝トロフィーを受け取る木村組合員。

【 成 績 】

優勝	木村喜久男	340点
2位	百谷　実	335点
3位	三国　務	324点

上位入賞の3人（左から、2位の百谷組合員、優勝の木村組合員、3位の三国組合員）。

流れるような美しいフォームからの……。

百谷組合員は今年も絶好調！

協同組合がシュレッダーサービスを実施！

～組合員から預かった機密書類などを断裁処理～

令和元年７月28日(日)午前11時から、柔整会館横の駐車場で、患者さんの個人情報保護を目的に専門業者によるシュレッダーサービスが実施されました。当日はとても暑い日で、しかも処理に持ち込まれた書類の重量も前回が490キロだったのに比べ、今回は830キロと340キロも増加。しかし、業者が用意した最新機器の処理能力によりわずか１時間で作業が無事終了しました。

３年に１度行われるシュレッダーサービスは、大切な個人情報を守り組合員が安心して安全に書類などの廃棄処分が出来るよう協同組合が行う事業で、次回は令和４年度の実施を予定しています。

Topics -トピックス-

トピックス①

今年で4回目 白山清掃登山実施

白いベストを見て声を掛けてくれる登山客も。

令和元年8月11日(日)、「山の日」恒例の白山清掃登山を行いました。台風9号の影響が心配されましたが、当日は曇り空と絶好の登山日和!早朝6時、登山者を乗せたバスが続々と到着する登山口を出発し、トングとゴミ袋を手に「砂防新道」の清掃活動を開始しました。

途中、休憩施設や甚之助避難小屋周辺で清掃活動を行いつつ、雲上の絶景や可憐な花々、雄大な自然を満喫しました。また御前峰の頂上碑で記念撮影をする時は、私たちの白ベストを見た登山者から「あなたの町の接骨院、頑張れ」や「今年もお疲れ様」の声を掛けて頂きました。

今年で清掃登山も4回目、入山者の増加に比例して落とし物やゴミも多くなってきました。回を重ねる毎に励ましの言葉が多くなり、認知度がアップしてきたことを感じています。参加された皆さま、お疲れ様でした。

登山ブームに連休も重なり登山道は渋滞ぎみ。

参加会員7人で、休憩施設の周りを清掃しながら山頂を目指す。

トピックス②

恒例 チャレンジ・マイハート
金沢南支部が草刈り奉仕活動

気持ちのいい汗で夏の一日がスタート!

令和元年8月18日(日)午前6時より、社会福祉法人石川サニーメイトで恒例の草刈奉仕が行われました。早朝にもかかわらず会員、家族、そして施設職員など50名が参加しました。

西川典孝金沢南支部長の挨拶、石川サニーメイトの中村純子理事長よりお言葉を頂いた後、鎌や草刈り機を手にいざ出陣。我々がひとまとめに「雑草」と呼んでいるこの植物たちにもそれぞれ立派な名前があり、おそらくホモサピエンス・ヒト科よりも太古の昔から地球上に生息し、生き抜いてきた“生命の大先輩”です。草刈作業をしながら彼らを、人間の高慢さ、怠惰の愚かさを諭し、適応能力の偉大さ、生命力の神秘、自然の驚異を教示する哲学者のように感じました。その“大先輩”から叱咤激励を受けた後は冷たいアイスで身体を冷やし、流した汗の意味を考える…そんな一日となりました。

道具を手に、いざ出陣!

ハイ!
前を通りますよ。

トピックス③

国内最大の大会

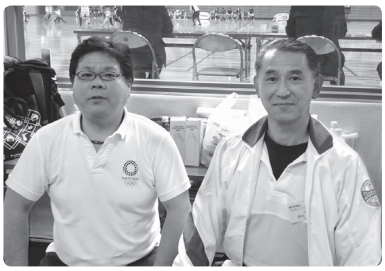
キンボールジャパンオープン･チャンピオンズカップが金沢で開催される

1チーム4人、12人の選手が激しく動きまわる。

令和元年11月17日(日)、金沢市総合体育館にて第20回キンボールジャパンオープン・チャンピオンズカップが開催され、当該連盟よりの依頼で救護活動を行いました。

日本キンボール連盟の馳浩名誉会長、金沢市の山野之義市長、日本キンボール連盟の高見彰会長の激励で大会がスタートし、先日行われたワールドカップフランス大会で男女共に銅メダルを獲得した日本代表チームが駆けつけました。代表選手たちは結果報告の後、各所属チームに合流し、男子25チーム、女子19チームが大会を盛り上げてくれました。

大変激しく動くスポーツで、捻挫、打撲、突き指をする選手も出ましたが、試合を続けられるようテーピング処置を行いました。



川上勝会員(左)と津田佳之会員の2名が救護にあたった。

※キンボールは直径122cmのボールを床に落とさないようにレシーブするスポーツで、3チーム同時にプレーするのが特徴です。

トピックス④

「日整全国柔道大会」「日整全国少年柔道大会」「日整全国少年柔道形競技会」が台風により中止に

10月14日(月・祝)に開催が予定されていた「日整全国柔道大会」「日整全国少年柔道大会」「日整全国少年柔道形競技会」は、台風15号による被害とそれを上回る台風19号上陸の予報を受けて中止となりました。大会を主催する日本柔道整復師会では、10月12日ギリギリまで開催の可能性を探りましたが、参加選手の安全を最優先に中止の決定を下したものです。

本会からは北信越ブロック西部地区代表として4名の会員が出場予定で、少年柔道大会代表の中能登柔道教室、少年柔道形競技会代表の窪田柔道倶楽部の選手、関係者の皆様も晴れの舞台での活躍に胸を膨らませていたことと思います。しかしながら、関東地方の甚大な被害を考えると、日整の判断は致し方ないと思わざるを得ません。

あらためて、被害に遭われました皆様には、心よりお見舞い申し上げます。

お詫び

ビバ・シティ23号(石整広報109号)に掲載の「令和元年・2年度各委員一覧」に誤りがございました。次のとおり訂正のうえ、お詫びをさせて頂きます。

(誤) 生涯学習副委員長　西　敏男

↓

(正) 生涯学習副委員長　**西　剛志・森田 一哉**

大変、申し訳ございませんでした。

編集後記

❖本誌トピックスにあるように、10月に開催が予定されていた日整柔道各大会・競技会が台風19号の被害を受けて中止になった。残念ではあるが、台風により家族を、家を、仕事を奪われた皆様を思うとお気の毒でならない。大好きなTV番組のコーナー「ひとり農業」を観た時は、もらい泣きしてしまった。石川県は幸いにも大きな被害を受けなかったが、本当に「幸い」なのであって、もし今後このような予報が出された場合にどう判断し、行動し、家族を守るのかを考えてみる。しかし、想定外とは想像をはるかに超えるものであり、結局なにも出来ない自分ばかりを想像してしまう。「宿命」という言葉も頭に浮かぶ今日この頃だ。
（真酒谷）

❖うちの子どもが通う学校には「NO!テレビ、NO!ゲームデー」があります。子どもたちの生活習慣の改善を目的に行っている取り組みですが、私自身はどうでしょうか？見たい番組も無いのにテレビをつけながらスマホをいじっている…テレビやゲーム、インターネットに何となく接している日頃の時間の使い方を見つめ直し、家族の時間を大切にしたいと思います。皆さんの家庭ではどうですか？
（山田）

❖新聞で町の本屋さんが少なくなったという記事を読み、久々に実家の近くの小さな本屋に寄りました。何か面白い本がないかと探していて、『「ほらあれだよ、あれ」がなくなる本。物忘れしない脳の作り方』』を見つけました。「おお、ちょうど患者さんや物の名前が出てこなくなった今の自分にピッタリじゃないか!」と、買って帰りました。そして家で気が付きました、去年買った本だったと。　（中野）

❖2か月ほど前に、思いきって桐の下駄を購入しました。カランコロンと音を響かせて近所を散歩していると、隣人から「ゲゲゲの鬼太郎」と呼ばれました。今年でアニメ化50周年を迎えるゲゲゲの鬼太郎。その鬼太郎が愛用する下駄も近年は愛好者が激減し、下駄職人は衰退の一途だとか。近い将来、カランコロンの軽快な音も聞けなくなり、ゆくゆくはお化けや妖怪の足音のような扱いになるのでしょうか。　（太田）

❖ビバ・シティ前号が編集作業の初参加でしたが、今回は文章作成もさせて頂き、初めて尽くしの一年となりました。広報部員として本会の様々な活動の現場を見ると、カメラを通して活動に関わっている会員の方々の熱意や気迫を感じます。そんな現場の雰囲気をこの広報誌を通じて皆様に知って頂けるよう、わかりやすい文章、見やすい写真を心がけ、先輩方から学びながら活動していきたいと思います。
（平林）

❖今年は、日本中がラグビーで盛り上がった。見ている方も体に力が入って疲れるが、みんなが一体になれるスポーツだと思う。起源は1823年、イングランドのパブリックスクール「ラグビー校」でのフットボールの試合中、一人の生徒がボールを抱えたまま相手のゴールを目指して走り出したことだとされている。もしかしたらみなさんも、これから生まれてくる新しいスポーツの起源になれるかも…。　（唐木）

❖最近免疫力が落ちてきたのか、金沢マラソンのサポート活動から2週間ほど咳が止まらなくなった。薬も効かず、終盤痰とは別の灰色のツルンとした塊が出てから急に楽になったが、カビか何かなのだろうか？「巷では原因不明の咳が拡がりつつある」と言う人がいたが本当なのか？気候変動等で日本に未知の病気が発生し始めているのではと、まるで小説みたいなことを考えてしまうのです。
（五十嵐）

ビバ・シティVOL.24 石整広報110　（2019年12月20日発行）

■発行所／**公益社団法人石川県柔道整復師会**
石川県金沢市広岡２丁目 3-26
TEL076-233-2122㈹　FAX076-233-2196
E-mail　ishiju@spacelan.ne.jp
■発行者／**嶋谷　清**
■編集者／**真酒谷 清・山田　誠・中野 秀人・平林 祐一・太田 信幸・唐木　均・五十嵐 久智**

撮影　加賀支部　佐藤 裕之会員
使用カメラ：NIKON D5300
絞り：f/5.6　シャッター速度：1/320秒
ISO：100

［妙成寺 さざれ石］
羽咋市にある日蓮宗本山妙成寺に、国歌「君が代」にも詠まれる「さざれ石」があることをご存知だろうか。歌詞の由来となった岐阜県揖斐川町春日の石を、第63世貫主が譲り受けたものとされている。
さざれ石とは細かい石、小石の意味で、それらが集まって巌（いわお）となり、さらにその上に苔が生えるまでの過程が、永い歳月を表しているという。平成から令和への御代替わりがあり、ラグビーワールドカップでも国歌を耳にすることが多かった今年、見所の多い妙成寺の中でも訪れる人々の関心を集めている。

公益社団法人 石川県柔道整復師会
石川県金沢市広岡2丁目3-26
TEL076-233-2122㈹ FAX076-233-2196
E-mail　ishiju@spacelan.ne.jp